

# 授業改善の手引 小学校第5学年国語

## 1 調査結果

### (1) 分布状況



正答数の最頻値は20問、平均正答数は15.5問です。R4年度と比較して、正答数が17問以上の層が減少した分布となっており、「書くこと」と「読むこと」の正答率が減少していることが要因と考えられます。また、正答数が5問以下の児童が全体の3.0%となっており、R4と比較し同程度ですが、この層に属する児童へのきめ細かな指導が引き続き必要です。

### (2) 領域等の正答率

観 点 ・ 領 域 等	正答率 ( )はR4
知識・技能 (9問)	70.5% (69.0%)
思考・判断・表現 (話すこと・聞くこと) (4問)	69.2% (65.1%)
思考・判断・表現 (書くこと) (4問)	63.1% (73.9%)
思考・判断・表現 (読むこと) (7問)	59.1% (64.4%)

### (3) 結果概要

- ア [知識及び技能] については、9問出題され、正答率は70.5%でした。
  - 「文脈に沿って、漢字や語句を適切に使う」は昨年度に引き続き良好でした。
  - 「漢字の由来、特質について理解する」について課題が見られます。
- イ [思考力、判断力、表現力等] (話すこと・聞くこと) については、4問出題され、正答率は69.2%でした。
  - 「必要なことを質問しながら聞き、自分が聞きたいことの内容を捉える」は良好でした。
  - 「司会などの役割を果たしながら話し合い、意見の共通点に着目する」について課題が見られます。
- ウ [思考力、判断力、表現力等] (書くこと) については、4問出題され、正答率は63.1%でした。
  - 「自分の考えを伝えるための書き表し方を工夫する」は、比較的良好でした。
  - 「自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く」については、引き続き指導の工夫が必要な状況です。
- エ [思考力、判断力、表現力等] (読むこと) については、7問出題され、正答率は59.1%でした。
  - 「段落相互の関係に着目して読む」は比較的良好でした。
  - 「目的に応じて、必要な情報を見付けて読む」(短答式問題) について課題が見られます。

### (4) 経年比較問題の状況 (◇改善、◇改善傾向、●課題が継続、△▼はR4県学調との比較により増減を表す)

通番号	正答率	比較	調査のねらい
◇7(知・技)	39	△2	修飾と被修飾との関係を理解する。
●14(読)	50	▼18	場面の展開を捉えて読む。
○19(読)	66	△5	段落相互の関係に着目して読む。
●24(書)	57	▼5	自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く。

- ◇ 通番号7は、若干のポイントの上昇は見られるものの、課題が継続している状況です。
- 通番号14、24は正答率が下降し、課題が見られている状況です。
- 通番号19は昨年に引き続き正答率が上昇しました。指導改善の成果が見られている状況です。



# 小学校国語

授業実践アイデア例

大槌町立吉里吉里小学校 教諭 北條 成美

## 【問題番号7】 正答率 39.6%

### 1 問題のねらい

修飾と被修飾との関係を理解する

### 2 授業実践アイデア例

◎単元名 修飾語を使って書こう（光村図書 第3学年・下）

◎重点指導事項 「主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解すること。」  
〔知識及び技能〕（1）カ

### ◎言語活動

文に修飾語を加えたり、文から抜き出したりする作文ゲームをする。

### ◎指導上の留意点

・本単元の指導事項に関する系統性を意識します。（学習指導要領解説国語編）

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
文や文章	主語と述語の関係	修飾と被修飾の関係	語句の係り方や語順

※中学校で、連用修飾語、連体修飾語に発展することも指導者は留意します。

・それぞれの文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて、文を組み立てるようにします。

### 【学習活動の計画】

この学習計画は、教科書を使用した学習に加えて楽しく実践して力を付けることができるアイデア、という視点で構想しました。

時間	内容
1	○教科書を用いて、修飾語の働きを知る。 ・主語と述語について、既習の内容を確認する。 ・修飾語によって、文の内容が詳しくなることを理解する。
2 (本時)	○文に修飾語を加えたり、文から抜き出したりする作文ゲームをする。
3	○教科書の教材から文を一つ選び、主語・述語・修飾語に分け、交流する。 ○修飾・被修飾の関係について考える。

### 【本時の展開】

◎ねらい 修飾語を加えたり指摘したりする学習活動をとおして、修飾語への理解を深める。

学習活動の流れ	つまずきの見られやすい点（重点的に指導する点）
①教師から配られた主語・述語のみの文に、一つ以上の修飾語を加える。	●述語に係る修飾語（連用修飾語）を加えることはひらめきにくい。 <u>配付文：花が さきました。</u> 文1：きれいな花が さきました。（ひらめきやすい） 文2：花がきれいに さきました。（ひらめきにくい） ↳「どのようにさいたの？」と問うことで気付きを促す。
②友達の書いた文を読み、加えた修飾語を当てる。	●述語に係る修飾語が離れていると、修飾語の指摘が難しい。 <u>配付文：わたしは 行きます。</u> 文1：わたしは 姉と いっしょに パーティーに 行きます。 ↳「姉と」「いっしょに」は一文節以上離れた「行きます」を修飾しているので、「姉と、どうするの？」と問う。
③加えた修飾語が、どの語をくわしくしているのか考える。	●主語に付くことの多い助詞「が」「は」が混在している文 <u>配付文：犬は かわいい。</u> 文1：わたしが 飼っている 犬は かわいい。 ↳複文は第5学年及び第6学年の指導事項ではあるが、児童が書き加えた場合には、「だれが飼っている犬なの？」と問う。

### ◎評価について

- ・修飾語を正しく指摘できたかを見取り、主語、述語、修飾語の関係を理解できているか確認します。
- ・本時の「学習活動の流れ」③の評価を生かして、第3時では修飾・被修飾の関係について考えます。

沿岸南部教育事務所（陸前高田市） 指導主事 永沼 竜次

児童がゲーム感覚で言語活動を楽しみながら、修飾語について適切に理解できる展開となっています。本事例のように、授業者が指導事項を正しく捉え、学びの系統性を意識するとともに、児童が主体的に取り組むことができる言語活動を設定し、身に付けさせたい資質・能力を育成することが大切です。

## 小学校国語

授業実践アイデア例

沿岸南部教育事務所（陸前高田市） 指導主事 永沼 竜次

【問題番号 18】 正答率 44.5% 無解答率 15.4%

- 1 問題のねらい  
登場人物の心情について、描写を基に捉えて読む
- 2 授業実践アイデア例

- ◎単元名 描写から心情の変化をとらえ、考えたことを伝え合おう
- ◎教材名 たずねびと（光村図書 第5学年）
- ◎重点指導事項 「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」  
〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」（1）イ

- ◎言語活動  
描写に着目して綾の心情の変化を捉え、作品に込められた思いについて、考えたことを伝え合う

- ◎指導の留意点
  - ・行動や情景の描写から主人公「綾」の心情の変化を捉えたうえで、作品のテーマである原爆や戦争への思いについて、児童一人ひとりが考えたことを伝え合う学習を行います。
  - ・文章構成図を用いて綾の変容を捉えます。文章構成図は、「綾が出会ったもの（人）」「綾の心情と変化」「綾の心情が分かる行動・情景描写」が場面ごとに分かるように作成します。
  - ・綾の心情を捉えられるよう、出会ったものの意味や着目したい叙述、描写について丁寧に教材分析を進めます。

【学習活動の計画】（7時間扱い）

学習活動	※○数字は学習順
①教材文を読む、原爆や戦争について考えたことについて、初発の感想を書く。	
②「綾が出会ったもの（人）」「綾の心情と変化」「綾の心情が分かる行動・情景描写」から物語全体の文章構成図を作成する。	
③広島に着いてからの綾の心情について、行動や会話、情景などの描写を基に捉える。	
④最後の場面を読み、行動や情景の描写から綾の変容について話し合う。	
⑤物語の全体像を捉え、原爆や戦争への思いについて、考えたことを伝え合う。	

【学習活動④における、1単位時間の展開】（○…学習活動 ☆…指導のポイント）

- 最後の場面について、描写を基に綾の心情を考える。  
☆「着目した描写」と「描写から想像した心情」をロイロノートのカードに記入する。記入したカードを提出し、交流に生かす。
- 児童が想像した心情を交流し、読みを深める。  
☆児童の発言を意図的に取り上げることで、読みを深める。

<暗示的な行動描写を基に、心情を捉える力を付けるための発問例>

○着目した描写  
らんかんにもたれた。  
○描写から想像した心情  
綾はらんかんにもたれることで、自分の気持ちを落ち着かせようとしている。

使用したロイロカード



Aさんは、「川土手をゆっくり歩いて橋に向かった。」「わたしはらんかんにもたれた。」というところから、綾が自分の心を落ち着かせようとしていることを読み取ったけれど、この文から他にも分かることはありますか。

「らんかんにもたれた。」という部分からは、綾が広島で出会ったものや人について真剣に考えながら、アヤちゃんへの思いを深めていたことも分かると思います。



<複数の情景描写を結び付け、作品全体をとおした心情変化を捉えるための発問例>



Bさんは、「静かに流れる川、夕日を受けて赤く光る水。」という情景描写には「アヤちゃんのことをずっと忘れない」という綾の決意が込められている、と書いていますが、他の場面にも綾の心情を表している情景描写はありますか。

広島に着いた場面の「秋の空は高く青くすんで」という明るさを感じさせるところから、綾がこの時はまだ、強い決意をするまでは考えていないことが想像できます。



- 交流をとおした深まりを生かして、綾の心にうかび上がったことを考え、ノートに書く。

◎評価について

- ・本単元の重点指導事項を取り扱う学習活動④では、綾の心にうかび上がったことについて、行動や情景の描写を根拠にして記述できているかをノートで見取り、記録に残します。
- ・物語の全体像を捉える学習活動⑤において、描写を基に具体的に考えることができるよう、記録に残す学習活動④の評価を、⑤の指導にも生かしていきます。

【問題番号 22】 正答率 33.2% 無解答率 15.3%

1 問題のねらい

目的に応じて、必要な情報をとらえて読む

2 授業実践アイデア例

- ◎単元名 「文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう」
- ◎教材名 「見立てる・言葉の意味が分かること」(光村図書 第5学年)
- ◎重点指導事項 「目的に応じて、必要な情報を見つけて読むこと」  
[思考力、判断力、表現力等] C(1)ウ
- ◎関連指導事項 「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」  
[思考力、判断力、表現力等] C(1)ア

◎言語活動

筆者が伝えたいことを正確に説明できるか、友達と交流して確かめる。

◎指導上の留意点

- ・文章の構成と内容を学習した後、「初め」と「終わり」、「中」の役割や関係を考える活動と、要旨をまとめる活動を行います。
- ・筆者が伝えたいことを正確に説明するという目的に応じて、文章の中から必要な情報に注目することができるように、次のような単元の学習過程を展開します。

1～2時	①学習の見通しをもち、学習計画を立てる。 ②教科書教材「見立てる」の構成を確認し、要旨をまとめる。
3～4時	③教科書教材「言葉の意味が分かること」の構成を確かめる。 ④「初め」「中」「終わり」に書かれている内容を整理する。
5～6時	「初め」「終わり」の内容から筆者の考えや主張を捉える。 ⑤「中」に挙げられている事例を原因と結果の関係でみたり、筆者の考えにどう結び付いているのか考えたりする。
7時	⑥要旨を150字程度でまとめる。 ⑦まとめた要旨をもとに、筆者が伝えたいことを説明し合い、筆者の考えを捉えるために必要な情報が含まれているかについて確認し合う。
8時	⑧7時の学習をもとに、必要に応じて要旨を加筆修正する。 ⑨学習を振り返り、筆者が伝えたいことを説明するためにどのような情報が必要であったか確認する。

◎上記の単元計画の中で、第7時において以下のように展開しました。

【本時の展開】 (○学習活動 ☆指導のポイント)

- 文章中から必要な情報を探し、要旨をまとめる。
- ☆前時までに学習した構成と内容、考えとの結び付きなどを振り返り、どの部分に着目すればよいか確認する。
- ☆繰り返し登場する言葉や、読者に問いかけたり語りかけたりするような文末に着目することも確認する。
- ☆接続する語句や段落の役割に着目し、筆者の考えと理由との関係を捉えるよう促す。
- 筆者が伝えたいことを説明し合う。
- 説明を振り返り、必要な情報が入っていたかという観点で交流して、要旨を正しく把握していたか確かめる。
- 筆者の考えの中心や主張は、「初め」と「終わり」に述べられていることが多いことを再度確認する。

も決然であるそのりはし(要旨例)  
 気だあこの、言言言  
 付とるとは言葉葉葉  
 か当思をん葉葉葉  
 せたりてを覚いのにつ  
 てりてそうえを適切に  
 くる前いるとお解に  
 るはもくすは使  
 の私ことるう  
 いのたか必要た  
 こ見ちが要  
 と方が大が  
 なが自切あ

◎評価に当たっては、ノートにまとめた要旨を確認し、必要な情報を捉えることができているかを見取るようにしました。

宮古教育事務所(宮古市) 指導主事 藤森 崇浩  
 筆者の伝えたいことを正確に説明するという言語活動を位置付け、必然性をもって要旨を把握することをおして「必要な情報を見つける」力を高める単元の構想です。本事例のように、目的を明確にした言語活動を設定したうえで必要な情報を見つけるための手だてを明らかにし、授業を実践することが大切です。

## 小学校国語

授業実践アイデア例

宮古教育事務所（宮古市） 指導主事 藤森 崇浩

【問題番号 24】 正答率 57.3% 無解答率 15.3%

### 1 問題のねらい

自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして文章を書く

### 2 授業実践アイデア例

◎単元名 『ふるさとの食』を伝えよう（東京書籍 第4学年下）

◎重点指導事項

「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること」

〔思考力、判断力、表現力等〕B「書くこと」（1）ウ

◎言語活動

ふるさとの食のよさを伝えるリーフレットを作る。

◎指導上の留意点

- ・書く事柄を整理する際に、ふるさとの食の魅力を伝えるために適切だと考える理由や事例（写真を含む）を挙げるよう促します。
- ・児童が書く事柄（写真を含む）を選択した理由を考え、交流する活動を行うことで、考えと理由との関係を明らかにできるよう、次のような単元の学習過程を展開します。

【単元計画】

- ① 教師が作成した二つのリーフレット（同内容であるが異なる写真を使用したもの）を提示し、どちらの写真がより「食のよさ」が伝わるか検討する。  
学習計画と、リーフレットの「評価の判断基準」を共有し、学習の見通しを持つ。
- ② ○○さんにおすすめしたい食べ物を決める。
- ③ 食のよさを伝えるためにリーフレットに書く事柄をカードに整理する。
- ④ リーフレットに用いる写真を選択し、選択した理由をまとめる。
- ⑤ わり付けを考える。
- ⑥ リーフレットを作る。
- ⑦ リーフレットを読み合い、評価の判断基準に基づいて相互評価を行う。
- ⑧ 相互評価を踏まえ、リーフレットを見直す。
- ⑨ 単元の学びを振り返る。（○数字は学習順であり、時数ではない）

【単元計画④の学習活動の具体】（☆指導のポイント）

#### ① リーフレットに用いる写真を検討する。

本時は、候補となる写真の長所と短所を考える欄を設けたワークシートを用いる。（右図）

・なぜ候補1の写真を用いたのか、理由を記入する欄を設ける。

☆候補1・2それぞれを用いた場合の違いを考えるよう促す。

考えたことをワークシートにまとめる。

#### ② ①のワークシートをペアで共有する。

☆選択した写真が、考えを伝えるうえで適切であるか交流する。また、写真と記事の関連が明らかか検討する。

#### ③ ②の共有を踏まえ、個人で写真と記事の関連について再検討する。

#### ④ 全体で数名のワークシートを共有したのち、振り返りをする。

写真	写真
よいところ	よいところ
わるいところ	わるいところ

【評価について】

◎評価に当たっては、完成したリーフレットを確認し、「書くこと」のウについて総括的な評価を行うこととします。観点を「自分の考えが明確であること」「支える理由が明確であること」「考えと理由の関係が明確であること」として評価しました。単元の始めに児童と共有したリーフレットの評価の判断基準と同様のものです。

◎単元計画④の時間においては、「考えと理由の関係が明確である」かどうかを確認し、形成的な評価を行う時間としました。考え（記事）と理由（添付写真含む）の関係性に課題がある児童には、記事の内容を見直したり、写真を再検討したりするよう促しました。